



別府、由布両市にまたがる鶴見岳・伽藍岳で火山性地震が多発し、気象庁は 8 日に噴火警戒レベルを県内初の「2」へ引き上げ、噴石や火砕流への警戒を呼びかけました。



伽藍岳の爆裂火口周辺。噴気は通常時と大きな変化は見られなかったという＝8日午後0時7分、由布市湯布院町塚原、撮影・小林大輔



	噴火警戒レベル	火山活動の状況	住民や登山者の行動
特別警報	5 避難	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生	危険な地域からの避難
	4 高齢者等避難	重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想	避難準備、高齢者ら要配慮者の避難
警報	3 入山規制	居住地域の近くに重大な影響	今後の活動に注意、登山禁止・入山規制
	2 火口周辺規制	火口周辺に影響	通常の生活、火口周辺の立ち入り規制
予報	1 活火山であることに留意	火山活動は静穏	通常の生活

噴火警戒レベル初の「2」

鶴見岳・伽藍岳で地震多発

別府、由布両市にまたがる鶴見岳・伽藍岳で火山性地震が多発したとして、気象庁は8日、噴火警戒レベルを1の「活火山であることに留意」から2の「火口周辺規制」に引き上げた。国が2007年に警戒レベルの運用を始めて以来、県内の山で2となるのは初めて。伽藍岳の山頂南側にある爆裂火口から周囲約1キロの立ち入りを制限し、噴石や火砕流に警戒するよう呼びかけている。（取材班）

大分地方気象台による「ごろから山体を震源とする」と、伽藍岳で8日午前2時〜火山性地震が断続的に起

き、同日時までに91回観測した。震源の深さは1〜4キロ。その後、揺れは確認できなかった。

れている。鶴見岳で火山性地震は起きていないという。

県は災害対策連絡室、別府、由布両市は警戒本部を設置。由布市湯布院町塚原を走る県道のうち、伽藍岳近くの1キロ区間を通行止めにした。

福岡管区気象台は現地にも職員を派遣。調査に当たった下川雅章・火山機動観測班長は「噴気は量、高さとも特に大きな変化はないと感じている」と説明した。



①今回、鶴見岳・伽藍岳で噴火警戒レベルが「2」に引き上げられた要因を答えましょう。

.....

②正誤問題 ※解答欄の（ ）内に○か×を、×の場合は誤りの箇所を書くこと

(1)伽藍岳で8日午前2時頃から山体を震源とする火山性地震が午前11時までに91回観測された。

正誤（ ）

誤りの箇所.....

(2)鶴見岳でも地震が多発している。

正誤（ ）

誤りの箇所.....

(3)伽藍岳近くの1キロ区間を通行止めにしたため大分道も規制された。

正誤（ ）

誤りの箇所.....

③国内で噴火警戒レベルが一番高い場所はどこか調べてみよう。

.....

④「立ち入り禁止」を知らせる
ピクトグラムを考えてみよう。